

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地	浜松市東区小池町38-1		
自己評価作成日	令和5年 3月 7日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 3月 14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養との併設施設であり、他事業所の協力が得られやすい。4階に併設されている為、眺めがよく、天気のいい日には富士山が見え、利用者と景色を楽しむことが出来る。職員間で利用者の変化について情報交換を行い、その時の利用者の心身の状態に合わせた対応を考え、利用者が安心・安全に過ごせる環境を考えている。また、利用者の家に上がらせていただく気持ちで出勤時・退勤時には一人ずつ挨拶を行っている。また、利用者の自尊心を守り、やりがいを持てるよう、感謝の気持ちを忘れないように「ありがとう」をたくさん伝えるようにしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根ざし、地域に開かれた、地域住民に支えられた施設づくり」を基本方針として30年以上地域の福祉の拠点の役割を担い、地域との協力関係を構築している。複合施設のため事業所間の協力や人の交流があり生活感がある。4階に位置するため展望が良く、富士山を眺めながら景色を楽しめたり、リラククスできる空間となっている。ベランダや庭園を活用して花壇や野菜作りを行い、楽しみや気分転換を図っている。法人の全体研修と各事業体の研修を計画的・効果的実施し人材育成に力を注いでいる。身体拘束ゼロ宣言や虐待防止の研修で「尊厳を守るケア」を学び、目標管理シートを活用し「よりよいケア」を目標に利用者一人ひとりにあった支援に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差した施設」を基本理念・基本方針とし、買い物は地域のスーパーへ出かけている。また、基本理念や基本方針をもとに目標管理シートを作成し、1年間の目標を個々に設定し、実施している。	「地域に根差した施設」の理念・方針を職員間で共有し、年間目標を個々に設定し実践している。各自、1ヶ月毎に評価・見直しをし修正している。地域資源の積極的活用に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動スーパーとくし丸が施設まで来寮して下さる為、利用者と一緒に買い物へ出かけている。また、施設周辺の草取りやゴミ拾い等の活動を2ヶ月に1度実施している。	2週間に1回立ち寄る移動スーパーで買い物をしている。年1回地域の公会堂の草取り、夏・秋まつりへの参加等地域とつながりながら暮らしている。浜松まつりの際は、屋台、練り、ラッパ隊が訪寮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、地域包括支援センターと一緒に介護者教室にて、認知症の勉強会を実施していたが、現在実施できていない。しかし、毎月グループホーム内では、認知症の勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や運営推進委員の方々に書面にて、運営についての報告を行い、意見をいただき、サービスに反映している。	自治会長、民生委員、地域の方、家族、行政、地域包括支援センターさぎの宮、以前入居していた人の家族の方をメンバーに、取り組み状況等の報告や意見や要望を聞く機会を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市役所の担当へ送り、取り組み内容の報告を行っている。	事業所の取り組み、コロナ感染状況と対策、運営推進員委員からの意見や要望、感想等の報告や、生活保護を受給している利用者の状況報告しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として身体的拘束適正化委員会を設けており、毎月身体拘束を行っていないかの確認を行い、年間で実施しなければならない研修を実施している。また、身体拘束の宣言を行っている。	事業体で「身体的拘束適正化検討委員会」を設置し、定期的に検討会や研修を行っている。毎月ケアを振り返り、身体拘束しないケアに努めている。「拘束を絶対しないケアを行う」の姿勢が浸透している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設として虐待防止委員会を設けており、年間で実施しなければならない研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加した職員の研修報告を確認し、権利擁護に関する制度について学ぶことが出来る。また、現在入居されている利用者に成年後見人がついている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書について家族へ説明後、利用者や家族の不安や疑問を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、運営推進会議の書面評決時に伺っている。利用者の意見や要望は、日々のケアの中で伺い、サービスに反映している。	運営推進会議や報告・連絡時に家族から意見・要望を聞いている。最近では、「事故報告に対応の結果を入れてほしい」「書面評決は時間とコストがかかるので方法を検討してほしい」等の意見や提案があり反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に3回の面接時に個別に意見や提案を聞く機会を設けている。	会議や申し送り時、また日常の中で施設長や管理者による年2回の個別面談を設け、意見や提案を聞いている。身体レベルの変化と生活の継続等、意見や提案を積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートやHEK1990を通し、職員個々の努力ややりがい、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、内部研修を開催し、学ぶ機会を設けている。また、施設外研修では、オンラインや会場への参加ができる環境を整えている。また、研修報告を他職員も確認することで全職員が学ぶことが出来る環境を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間交流研修にて、他施設との交流をする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者からどう生活したいか希望を伺い、ケアプランに反映している。また、日々の関わりの中で希望や要望伺い、安心して生活ができるよう関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族からどう生活してほしいか希望を伺い、ケアプランに反映している。また、入所前の契約時に不安や希望・要望を伺っている。日々の様子に変化があった時には、連絡をし、状態を伝え、ご家族の意見や了承を得るようにし、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接時に利用者・家族から話を聞き、必要としているサービスをケアプランに反映し、日々のケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本方針を「共に生きる」とし、利用者の残存機能を活かし、調理や洗濯・掃除等の日常生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議にて、利用者の日々の様子を伝え、意見や要望を伺っている。また、条件づけた状態での直接面会やオンライン面会を開催し、利用者と家族の関係づくりを行っている。状態が変化した時には、電話連絡を行い、緊急時に協力して頂けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの手紙は利用者到手渡している。また、電話連絡があった場合、家族の了承を得た状態で対応をし、関係が途切れないようにしている。	コロナ禍のため、主に手紙や電話で関係継続を図っている。感染が落ち着いたら、美容院やお墓参り、奉公先やなじみの場所等への外出、より来寮しやすい環境作り等、関係継続に努めたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席は利用者の関係を把握し、決めている。問題が出た場合には、変更を行っている。また、寮母室前の椅子に座り、好きな利用者同士で話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議委員を行って下さる、家族もいる。相談の連絡がある場合には、必要に応じて対応するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や要望があれば耳を傾け、可能な限り実現に努めている。また、利用者本人からの訴えが伺えない場合には、利用者にとって良いケアや環境になるよう考え、対応している。	利用者の日常の様子や会話、家族からの情報、気持ちを推測しながら思いや意向の把握に努めている。行事の前には、食べたいものやどのようなことをしたいか等を聞き反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴や生活環境これまでのサービス利用時の様子を伺い、アセスメントシートを作成し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合わせた対応を行い、個々の過ごし方で過ごしていただく。また、調理や洗濯等の日常生活を共に行うことで現状の利用者の持っている力の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、ケアマネと現状についての意見交換を行っている。また、家族には状態が変化した際に連絡を行い、家族の意見を伺っている。	利用者の心身の状況や記録、家族の意見・要望から、その人にあった介護計画を立案、モニタリングしている。変更があった場合は内容を説明し、同意を得ている。状況に応じて他専門職と協力し支援に繋げている。	分散している情報を集約し、集約した情報から現状分析・課題の抽出をして、利用者がよりよく暮らすための介護計画に反映することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子を記入し、全職員が記録の把握を行い、カンファレンスの際に見直しに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態が変化した際には、他部署の応援が得られようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動スーパーとくし丸が2週間に1度施設まで来察して下さる為、利用者と一緒に買い物へ出かけている。また、2ヶ月に1度施設へ美容院の方が来察して下さり、散髪を実施している。それ以外では、近所のスーパーへ職員が買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を伺い、納得を得られた場合には、施設のかかりつけ医に定期的に受診を行っている。他の医療機関受診が必要な場合には、ご家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医(かかりつけ医)に月1・2回受診している。夜間緊急時の協力体制も整っている。併設の介護老人福祉施設の看護師と常に情報交換をして適切に対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全体の申し送りにて、状態変化時には施設看護職員に情報を伝えている。座薬や吸引が必要になった場合、施設看護職員に連絡をし、協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟看護師や医療連携室と連絡を取り、情報交換を行い、早期退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に家族に重度化指針についての説明を行い、同意を得ている。また、状態変化時には、現状を伝え、家族の意向を伺い、対応できる限りの意向に添えるようにしている。	入居前に「重度化指針」について丁寧に説明をし理解を得ている。医療行為が必要になった時や利用者の望む生活が難しくなった場合は、家族やかかりつけ医と最適な支援方法を検討している。家族の協力が不可欠であると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営規定や契約書・重要事項説明書に急変時や事故発生時の対応について謳っている。また防災訓練時に災害時の対応について訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月と11月の総合防災訓練にて、火災や地震の避難訓練を実施している。また、毎月の防災訓練でも、災害時の対応についての訓練を実施している。	毎月防災訓練を実施している。火災・地震・昼夜を想定して訓練を行っている。複合施設のため各事業所の協力体制もできている。福祉避難所として状態にあった具体的支援方法を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時、利用者一人一人に挨拶を行っている。ケア時には、利用者へ説明を行い、同意を得て行っている。排泄や入浴時には、扉やカーテンを閉め、プライバシー保護を行っている。	グループホームは「家」の考えから、出勤時には必ず一人ひとりと挨拶を交わしている。不適切な声掛けやスピーチロックについて、勉強会や毎月の振り返りで確認し対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや選択メニューの際には、利用者に希望を伺っている。行事等を行う前に利用者の希望や意見を伺い、反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人に合わせ、テレビを見たり、塗り絵やクロスワード・パズル等をして過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設来寮美容院に2ヶ月に1度散髪を行っている。また、本人の希望で化粧をしたり、髭剃りを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食は利用者と一緒に調理を実施している。行事や誕生日には、利用者に希望や要望を伺い、反映している。出来る利用者には、ご飯とみそ汁の盛り付けや食器洗いを行ってもらっている。	献立は事業体の管理栄養士が作成し、主菜のみ厨房で調理している。担当職員が食材を確認しながら、利用者と話し合い主食、汁物、一品を決め、個々の力を発揮しながら食事作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量を業務日誌に記入をしている。水分は1日の水分トータルを記入している。また、食事量が減っていたり、医師より栄養状態のアップを指示された場合には、栄養補助食品を対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前、歯磨きの実施と義歯装着者にはポリデントの実施をしている。毎食後モンダミンを実施している利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1か月ごとに個別に排泄表をまとめ保管している。排泄介助者については、業務日誌に記入している。	排泄動作や毎月の排泄表からパターンを把握し、一人ひとりの個別性にあつた排泄の支援を行っている。認識しやすいトイレのドアに花を飾る等、環境を整え、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食時にヨーグルトやヤクルトを提供している。また、1日2日職員が実施するみんなの体操と一緒に実施してもらい、運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴は個別に対応している。利用者が拒否した場合には、時間や日にちを変更し、対応している。また、入浴時には、入浴剤を使用し、入浴を楽しめるように対応している。	個々の生活習慣や好みを尊重し個々の状況に合わせて、入浴を楽しめる支援に努めている。基本的には午前入浴、拒否のある場合は日にちや時間を変更し声掛けにも工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体的機能に合わせて、臥床する時間を設けている。また、リネン交換や布団干しを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と薬一覧表をもとに薬の量や目的の把握を行っている。状態変化時には、主治医に状態を伝え、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本を読んだり塗り絵やクロスワード等が行えるように設置している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダに散歩へ出かけたり、花壇や畑の手入れを利用者と一緒に行っている。移動スプー、とくし丸へ買い物へ出かけ、欲しいものを購入している。	コロナ禍のため一人ひとりの希望に沿つた外出支援が難しい状態であつたが、現在ある資源を活用して気分転換や希望に添えるように努めている。食事や買い物、ふるさとへの訪問、ドライブ等徐々にいけることを検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機や移動スーパーとくし丸で買い物できるようにお金を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞いを利用者と作成し、家族へ郵送を行った。年賀状は家族から送られてきている利用者もあり、家族や大切な人とのやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には天窓があり、日の光を取り込めるようになっていいる。また、天井が高く、広い空間づくりとなっている。	利用者が制作した季節がわかる壁紙を貼り、自分たちで居心地よい共有空間を作っている。食堂は天井が高く、天窓もあり明るい空間を作っている。椅子を動かして日向ぼっこをする等、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の空いている椅子を利用し、利用者同士で話ができたり、寮母室にて一人になり、日向ぼっこをして過ごせるようになっていいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具の持ち込みが可能になっている。現在は、神棚やラジカセ・テレビ等を持ち込み居室にて、落ち着いて過ごせる環境づくりをしている。	ベッド、タンス、床頭台、洗面台、エアコンは備え付けられている。本人や家族と相談しながら、利用者が居心地よく安心して過ごせる居室作りとなっている。身体状況の変化に対応しながらの環境づくりに心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりが設置されており、利用者の残存機能を活かして生活できるようにしている。		